

○ 第8回地域病院見学バスを実施しました。【7月20日(日)】

平成26年7月20日(日)、医学部附属病院地域医療支援センターが、第8回地域病院見学バスを実施しました。

地域医療支援センターでは、医学生を引率して地域病院を訪問し、見学や意見交換を行うことで、将来 地域医療を担う医師を目指す医学生に、早い段階から地域医療の実情に触れ、実感する機会を設けています。

今回の訪問先は西予市立野村病院で、医学科1・3回生11人が参加しました。

午前中は内科と外科に分かれ、白衣を着用して各担当看護師の補助の下、入院患者のケア等を実習し、患者さんとの交流の機会を得ました。



西予市立野村病院



入院患者のケア実習

午後は、川本龍一地域医療学講座教授から地域医療実習等について講義を受けた後、3班に分かれて、医師の訪問診療に同行しました。

その後、病院内で「地域医療の魅力と各職種の役割」と題して、放射線技師、理学療法士、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務長及び医師2人から講義を受けました。



川本地域医療学講座教授



長谷川地域医療支援センター助教

次に、見学生で地域医療に関するワークショップを約1時間行い、グループ毎に討議結果を発表しました。

発表の中で、「医師が人の役に立っているんだと感じた。モチベーションアップに繋がる。」「訪問診療では、医師と患者さんの距離が近く感じた。」「地域医療が好きだと実感した。」「患者さんとの関わりでは、笑顔での対応や話しながら頂く等、小さな配慮が必要だと思った。」等の意欲的な意見が多く聞かれ、非常に好評でした。

終了後、野村町内にて見学生と訪問先の医師・職員で、和やかに夕食会を開きました。

本センターでは、今後も県内各地の病院見学を実施し、地域の医療機関と連携しながら次世代の地域医療を担う医学生の育成を進めてまいりたいと思います。



ワークショップ



夕食会の様子

【ワークショップの発表内容】

- ・医師が人の役に立っているんだと感じた。モチベーションに繋がる。
- ・訪問診療先で、自宅介護が夫婦の意思疎通に資していることを伺い、自宅介護の大切さが分かった。
- ・訪問診療先でのふれあいは、地域医療に柔軟性があるからできると思った。
- ・実技の重要性: 患者さんとの関わりでは、笑顔での対応や、話しながら頷く等、小さな配慮が必要だと思った。
- ・死後のケア: 患者さんの病気ではなく、患者さん自身を診ているんだなと感じた。
- ・患者さんへの励ましの声かけは大事だし、患者さんに対するデリカシーは持ち続けたい。
- ・机上の勉強では、患者さんのX線写真を見ても、ただの物としてしか見られなかったが、患者さんと触れ合うことによって患者さんや家族の人と真摯に向き合うことの大切さを知ることができた。
- ・基礎系の勉強は面白いけれど、現場では役に立つのか? と思ったりしていたが、現場で薬の名前を聞いて、今までの知識が役立った感じがした。勉強を頑張ろうと思った。
- ・患者さんに安心感を与える態度が必要だと感じた。
- ・訪問診療では、医師と患者の距離が近く感じた。
- ・知識があっても、いざやってみて、と言われると、出来ないのが印象深かった。
- ・患者さんだけでなく、家族など周りの人のことも包括的に見る必要があると感じた。
- ・「地域医療が好きだ」と実感した。
- ・患者さんにとって苦しい手技もしなくてはならない。看護師の方が励ましながらされているのを見て、声かけが大切だと思った。